

—大菊の冬至芽分け—

Q. 鉢植えの3本仕立て菊は花が咲き終わった後、どのように管理したらよいのですか？

A. 親株から出る地下茎(冬至芽)を切り取って鉢や箱に植え込んで育てます。

《ポイント》

大菊3本仕立て盆養は特に健全な苗づくりが重要です。よい苗をつくるために、冬至芽から茎葉の充実した挿し穂を作るための親株を育てます。

1 親株の管理

(1) 開花した株をそのまま越冬させる場合

冬至芽がぜんぜん出ていないか、1、2本くらいの場合は、3本の茎を5~6枚の葉を残して切り取ります。その後、芽の発生を促すために油粕の固形肥料を、12月中と翌年2月に3ヶ所に1~2個ずつ施します。

(2) 冬至芽が出ている場合

冬至芽が2、3本出ている場合は、茎を株元から切り取ります。根分けする冬至芽は、鉢の縁のほうから出ている芽を地下約3cmで切り取ります。

2 根分け苗の植え方

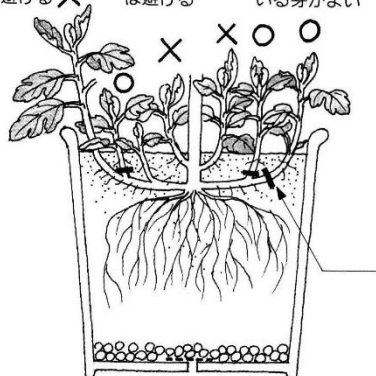
根分けの時期は11月下旬までです。

芽数が少ないときは15cm鉢(5号鉢)に1本ずつ植え、多いときには深さ15cmくらいの箱に植えます。間隔は翌年3月に移植するときは10cm、移植しない場合は15cm以上あけます。

肥料は1本植えの場合は緩効性化成肥料を1~2g培養土に混ぜ込み、鉢の縁に油粕固形肥料を3ヶ所に1~2粒ずつ置きます。箱植えのときは1本につき緩効性化成肥料を2~3g培養土に混ぜ込みます。

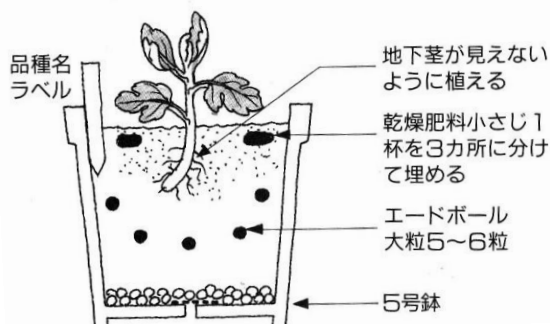
●根分け苗(冬至芽)のとり方

伸びすぎた芽は避ける × 親株に近い芽は避ける 親株から離れたいる芽がよい ○



●根分け苗(冬至芽)の植え方②(1~2本の場合)

5号鉢に植える



ノビル系デンドロビウムの落葉

Q. 10月から水を減らしていたら、葉が落ちてきました。
心配ありませんか？

A. 自然の落葉ですから心配いりません。

《ポイント》

昨年できあがったバルブの葉は落ちますが、このバルブが低温に当たると花芽ができます。

1 水やり

9月から次第に水やりを減らし、10月は1週間に1回とし、11月には午前中にシリンジする程度で、10日に1度くらい少しだけ与えます。

2 低温処理

鉢を室外に出して、夜の低温（7～8℃）に2～3週間当てます。
これをしないと花芽がつきません。

3 肥料

施さなくても十分です。

4 病害虫

乾燥させるので、ハダニが発生しやすくなります。ダニ専用の薬剤で防除しますが、同じ薬剤を続けて使わずに、別の系統の薬と交互に使います。

